

平成 22 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1470800846	事業の開始年月日	平成16年6月1日	
		指定年月日	平成16年6月1日	
法人名	特定非営利活動法人 加齢ライス			
事業所名	ほのぼのほーむ			
所在地	(2 3 6 - 0 0 4 2) 横浜市金沢区釜利谷東 7 - 1 4 - 2 9			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	定員計	9名	
		ユニット数	1 ユニット	
自己評価作成日	平成23年3月6日	評価結果 市町村受理日	平成23年5月10日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

木造平屋建てのバリアフリーの建物で、利用者と職員が明るく生き生きと過ごしている。建物の前には小川が流れ、四季の花が咲き散歩道としても、心安らげる立地条件にある。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成23年3月23日	評価機関 評価決定日	平成23年5月2日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

《事業所の優れている点》 ◇理念と介護十訓に沿ったケア 理念は、利用者が安心と尊厳のある生活を可能な限り自立して営むことができるように支援し、明るく健やかな生活を送れるような施設づくりを目指している。この理念を基本にして、「目標を持って行動する」「常に尊厳の念を忘れずに」「笑顔と思いやり」などの介護十訓を話し合いにより作成し、毎朝のミーティング時に唱和して共有し、実践につなげている。 《工夫点》 ◇家族との密接なコミュニケーション 毎月1回主治医の往診時に、家族が同席している。家族は利用者の健康状態を医師より直接説明を受け、安心して医療を受けられるようになっている。終了後は、日頃の利用者の生活状況や健康状態を話し合い、職員は要望・意見を聞きだして、利用者・家族の立場に立ったサービスの提供の実現に努めている。 ◇利用者と歓談して笑い声の絶えない暮らし方 天気の良い日には近くのアメニテイの小川のほとりを歓談しながら散歩している。リビングルームでは職員は利用者と和やかに歌やゲーム、おしゃべりをして、笑い声の絶えない暮らしに取り組んでいる。
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ほのぼのほーむ
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの広がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

施設名：ほのぼのほーむ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の中で共に暮らしている」このことを大切に、ホーム独自の介護十訓を作って、毎朝利用者とともに唱和し実践に取り組んでいる。	・理念は法人役員と職員が話し合いにより決め、玄関フロアに掲示している。 ・管理者は新入職員研修時に理念と介護十訓を説明し、職員は朝礼時に唱和して理解を深め実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入会している。お祭りや地域のボランティアの方とも交流し、日課ではアメニティの散歩コースで近隣の方と気軽にあいさつを交わしている。	・町内会に加入し、地域の夏祭りには神輿を見物し、防災訓練に参加している。 ・地域のボランティアとの交流で、チェロとビオラの演奏・日本舞踊が行われて、利用者を楽しませている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方には、普段から声掛けいつでもホームに立ち寄り見学が出来るようにその都度対応している。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	あまり参考になる事が無く、今は行っていない。むしろ職員（近隣居住者が多い）からの情報が多く、その都度実践している。	・運営推進会議は、平成21年3月以降は開催していないが、地元の職員から、地域の情報は得られる状況にある。	・運営推進会議は、事業所の行事や取り組みを報告し、意見交換や話し合いを行い、理解と支援を得る機会として定期的に行うことが望まれます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	判断が難しい事は以前から、市・区の窓口担当者に相談している。	・管理者は金沢区役所の関連部門と機会ある毎に報告し、助言や指導を仰いでいる。 ・介護保険の認定更新に家族に代わって、手続きに向かうこともある。	

施設名：ほのぼのほーむ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者本位の生活を大切にしている。そのためにご家族と相談したり職員間で日々話し合っている。玄関は夜間以外は施錠はしないこととし、自由に出入りしている。	・職員は身体拘束をしないケアの大切さを理解し、玄関は施錠せず安全面に配慮し、見守りに努めている。 ・警察署、交番には挨拶し協力をお願いしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に発展することが無いように管理者・主任・職員間で常に情報交換している。入浴時の身体の変化の観察も行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今回は玉絵医にも協力をいただき娘さんが後見人となった例かおる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	丁寧に十分な説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	不満や要望については、職員から報告を受けている。その都度、早目に改善できるように話し合っている。御意見箱を設置している。	・家族の来訪時には声かけし、意見や要望を聞いて運営に反映している。 ・家族は月1回の主治医の往診に同席し、利用者の日頃の生活状況を聞き、意見・要望を申し出ている。	

施設名：ほのぼのほーむ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティング、毎月のスタッフ会議で意見・報告・提案事項など日々話しあっている。	・法人代表者兼管理者は、ミーティングやスタッフ会議の際に、職員の要望・意見を聞き、改善や業務の向上に反映している。 ・職員の提案により、年間行事予定を掲示している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	意欲的に働きやすい環境を作っていく努力をしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人ひとりの個性を尊重している。ケアの積み重ねの中から得るものや意見交換をしながら学習している、		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市の認知症高齢社会などに、必要があれば出席している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安であることを十分配慮し、同じことを何度も繰り返しながら対応している。		

施設名：ほのぼのほーむ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	どんな些細のことで伝気軽に話せる雰囲気を心かけている。電話での相談・来幼時も常時受けられる体制を取っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	個別性を大切にして、優先順位を見極めながら、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いの信頼関係を築いて、何でも話合えるように日々努力している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の現状も理解しながら、情報を交換し、不安な状況を解決している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方にはいつでも気軽に訪問、電話をして頂けるように対応し、家族への協力もお願いしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者が家族と馴染みのラーメン店や寿司店へ行ったたり、墓参に出かけられるように支援している。 ・知人や友人が来訪し居室で歓談できるようにお茶のサービスをしている。 ・年賀状や手紙が届き、返信をポストへ投函の依頼をされることもある。 	

施設名：ほのぼのほーむ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格を理解し良い関係が出来るように、スタッフが把握しながら居心地の良い場所づくりをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも相談・支援できる関係にしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの思いを伺っている。	<ul style="list-style-type: none"> 職員は利用者の一人ひとりの意向や希望を会話や行動、しぐさから汲みとるように努めている。 意向を伝えにくい方には、居室やレクリエーションの中で聞くこともある。 	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴等をお聞きし、アセスメントへ情報を記載している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活をしっかり観察し、情報を交換し、変化を見逃さない。		

施設名：ほのぼのほーむ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・職員から意見を聞きながら、介護計画を作成しモニタリングでさらに見直しをしている、	・アセスメントは本人、家族の意向から行い、モニタリングを実施し、主治医の意見を入れて介護計画を作成している。 ・介護計画は通常3か月ごとに見直し、利用者に変化があれば随時現状に即したものとしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は介護記録に記入し、共有すべき事は連絡ノートに記載している、		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族・ボランティアなどへ依頼している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区センター等を利用している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月主治医の往診が有り、家族の付き添いもあるので、情報の共有はできている。専門病院への通院もできている。	・入所前からのかかりつけ医を継続して受診できるように支援しているが、大半が事業所の協力医療機関の内科医の往診を受けることに移行している。 ・医療情報は個人別の受診記録簿に記録し、職員間で共有している。	

施設名：ほのぼのほーむ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	どんな時にでも協力医の仁治医に連絡し指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院側と情報交換しながら早期退院に向け連携を図ってきた経験があるので今後も必要であれば十分対応出来る。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の説明と状態の変化を医師と相談し家族と話し合っている。職員も協力的なので看取りの経験もある。	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでに1名の方の看取りを行っている。利用者・家族には重度化した場合の対応について説明し同意を得ている。 ・急変時には主治医に相談し、家族・管理者が話し合っている。重度化対応の方針は職員に研修を行うなどして徹底している。 	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	いつでも対応できるように急変時のマニュアルで常日頃確認している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て夜間防災避難訓練を利用者・地域の方にも参加していただき実施している。非常用の防寒用品・非常食。排泄用品も準備できている。	<ul style="list-style-type: none"> ・防災・避難訓練は、年2回消防署の協力を得て、夜間を想定して実施している。 ・地域の方も参加して消火器の取り扱い方も訓練している。非常災害用の食料・飲料水は備蓄している。 	

施設名：ほのぼのほーむ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室はノックをし、声掛けをしてから入る。敬う気持ちで接し馴れあいな対応にならないよう前勤に気を付けている。トイレ時の見守りにも十分配慮している。	・職員は守秘義務に関する誓約書を提出している。 ・個人の尊厳を大切にし、日頃よりプライバシーを損ねることのないように言葉づかいに配慮している。 ・個人情報に関する書類は施錠のできる書庫に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なるべく自分で考え決められるように、ゆっくり待つ姿勢を大事にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大筋にし、利用者本位の生活を大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	「介護十訓」にもうたっている。訪問美容師のカットもある。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は配食を利用しているが季節感のあるものが多く好き嫌いなく完食されている。配膳、食器拭き、かたづけなどはお願いしている。	・利用者は職員と一緒に盛りつけ、配膳、片付けを行っている。職員も同じ食卓で食事をしている。 ・誕生会には利用者の好きなメニューの出前をとり、ケーキを提供している。	

施設名：ほのぼのほーむ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の献立でバランスが取れている。個人の状態に合わせて量を調整したり、水分チェック表で確認をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後のケアは一人ひとり見守りで実行出来ている。夕食後はポリデントで洗浄。定期的に訪問歯科医によるチェックもある、		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個別ケア・支援を行っている	・排泄チェック表により排泄パターンを把握し、トイレ誘導するようにしている。 ・日中は排泄の自立を目指して、職員は見守りに注力した支援を行っている。万が一失禁した場合でもプライドを傷つけることのないように声かけに配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量、毎朝の体操、散歩を日課にしている。食材の中には繊維質の多い献立もある。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日は決まっているが、安全面を重視し日中の明るい時間帯に入浴している。	・入浴は通常週2回とし、安全面を考慮して日中の明るい時間帯に入るように支援している。 ・入浴は楽しめるように声かけに工夫したり、季節に応じた柚子湯や菖蒲湯を提供したりしている。	

施設名：ほのぼのほーむ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調に合わせた対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の目的は主治医の往診で理解できる。薬は分包されており再確認しながら服薬している。薬による変化が有れば薬剤師・主治医に相談報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を考慮しながら個々に役割を持って頂き達成感につなげたい。年間の行事・誕生日会/ボランティアの楽しみもある。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入浴日以外は季節感を感じながら散歩をする日課となっている。普段行けないような場所には、ご家族にお願いしたり、年間行事に計画を入れる。	・天気の良い日には、車いすの方も散歩に出かけている。入浴日は利用者が疲労するので外出は避けるよう気配りしている。 ・近くに小川が流れ、四季折々の花が咲き、散策に適した場があり、利用者は外出を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の希望、能力に応じた支援を行っている。		

施設名：ほのぼのほーむ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	何時でも電話・手紙は自由に使えるようにしている、		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事の写真を貼ったり、個人の作品を飾ったりして、季節感・生活感を出している。	<ul style="list-style-type: none"> ・共有空間は清潔であり、スペースも十分にある。リビングは天窓からの採光もあり明るい。 ・壁面は貼絵や折り紙で四季に合わせて飾り、季節感を出すように工夫している。 	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有できるものを置いたり、毎月の作品を掲示したりしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分の使い慣れた物、家族の写真を居室に置くことによって安心して過ごしていただいている。	<ul style="list-style-type: none"> ・居室には馴染みの整理ダンス、テレビ、仏壇、神棚などを持ち込み、一人ひとりが居心地よく過ごせるように工夫している。 ・壁には思い出の写真や行事の写真、自作の塗り絵や習字を飾っている。 	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はすべてバリアフリー、手すりの設置で安全を優先している。居室の表札や表示等で混乱しないようにしている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 ほのぼのほーむ

作成日 平成23年5月2日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	3	現在は開催していない。	特に目標はない。	必要な時期に行う予定。	未定
2					
3					
4					
5					